

◇ 平成 28 年度教員採用選考試験に向けて “卒業生からのメッセージ”

- ◎ 教員 3 年目の宮野祐輔さんから教職課程を履修している在学生に対して、教師の仕事のすばらしさと教員を目指す在学生への激励の言葉を綴った温かいメッセージが届きました。

教職 3 年目の宮野祐輔です。5 年前に宮崎国際大学を卒業し、現在は宮崎市立大塚中学校に勤務しています。

今年度は 1 年生の学級担任、サッカー部の顧問をさせていただいています。私の教員生活はというと、朝から晩まで学校にいて、土・日は部活をするという仕事三昧の日々を過ごしています。よく、「休みがありませんね」「大変ですね」と言われますが、私は「教員」という仕事はとても幸せな仕事だと思います。

子どもたちの成長を肌で感じることができ、感動して涙を流せる仕事はそう多くはないと思います。悩むことは多いですが、子どもたちの笑顔に支えられ、教師として教えながら、人として学ぶことができます。

これから教師を目指す方々へ伝えたいことは、教師という仕事の素晴らしさと、責任の重さについてです。先生になれば、例え 1 年目であろうが子どもにとっては「先生」なのです。私たちが子どもたちに与える影響は大きく、人生を左右させることもあると思います。その責任の重さを十分に理解してほしいです。しかし、あなたにしかできない指導がきっとあります。あなたにしかない魅力との出会いを待っている生徒がきっといます。子どもたち一人一人を大切に、誠実に仕事をすれば、必ずそれを見てくれている子どもたち、同僚の先生方、保護者の方々が支えてくれます。

私もまだまだこれからです。世の中が変われば、子ども、学校、教育は変わります。それは一生をかけて学び続けるものだと思います。日々、謙虚に学び続ける姿勢と子どもたちへの愛情と情熱をもって、「今しかできないこと」を精一杯頑張ってください。一緒に宮崎県の教育を盛り上げていきましょう。

- ◎ 新規採用教員として教員 1 年目をスタートさせた坂本枝律奈さんからも、教員採用一次試験に挑戦する 4 年生に対するメッセージが届きました。

“教員採用試験に向けて”

採用試験に向けて自分がしたことといえば、やはり「時間配分を徹底した！」ということです。採用試験の英語の問題は、とにかくいろいろな種類の問題が出ます。だから、時間を上手く使わないと、あっという間に時間切れになってしまいます。実際、採用試験で一つの長文に時間をかけ時間が足りなくなった上に、その後焦って集中出来なくなってしまったこともありました。

それを繰り返さないために私が実践したのは、過去問をとにかく時間を計って行い、問題に対する自分のペースをつかむことです。過去問を解き終わったら、自分で採用試験問題を作って(いろいろな問題集の採用試験に似た問題に付箋などを貼って・・・)解くようにしていました。ま

た、6月～7月の土・日は採用試験の実際の時間に合わせて同じ時間に試験などをしていました。(一人寂しくですが・・・) どうしても時間がかかってしまう苦手な箇所は、繰り返し演習をしてスピードと正答率を上げるようにしました。

試験当日はとても緊張しましたが、「一人模擬試験」のおかげでペース配分がつかめていたので、焦ることなく解くことができました。「英語の勉強」をすることはもちろん大切ですが、限られた時間の中で、最大に力を発揮するトレーニングも大切だと思います。

7月の試験に向け、今が一番苦しい時期であると思います。体調には気を付けて、当日全てを出し切れるように頑張ってください！ Be confident!

競争倍率2.7倍を突破した坂本さんの採用試験対策には、本当に頭が下がります。4年生の皆さんの奮闘を願ってやみません。

◇ 宮崎県公立学校教員採用選考試験の今年度の競争倍率、発表！

受験区分別倍率（「宮崎県教育委員会ホームページ」より）

受験区分	平成 28 年度			平成 27 年度		
	応募者数	採用予定	倍率	応募者数	採用予定	倍率
小学校教諭等	463	78	5.9	458	44	10.4
中学校教諭等	487	49	9.9	474	36	13.2
高等学校教諭等	431	41	10.5	458	37	12.4
特別支援学校教諭等	132	30	4.4	141	25	5.6
養護教諭	118	20	5.9	108	15	7.2
栄養教諭	37	3	12.3	45	4	11.3
中学校教諭（英語）	112	6	18.7	114	7	16.3
高等学校教諭（英語）	45	4	11.3	54	2	27
全体	1,668	221	7.5	1,684	161	10.5

学生教職支援センター通信第2号でもお知らせしましたが、昨年度の場合と大きく変わったのが、小学校教諭の採用数です。昨年度は、特別選考（英語）若干名を含めて採用予定は44名でしたが、平成28年度採用予定は、特別選考（英語）3名を含めて78名採用の大幅増となっています。競争倍率も10.4倍から、5.9倍に大きく下がりました。一方、中学校英語の倍率は、採用予定数が7名から6名に減ったこともあり、16.3倍から18.7倍に上がりました。また、高等学校英語については、採用予定数が2名から4名に増えたために、倍率が27倍から11.3倍に下がりました。

◇ 国の大きな動きをしっかりと押さえておこう

(1) 特別な教科「道徳」について

平成 26 年 10 月の中央教育審議会の答申「道徳に係る教育課程の改善等について」を受け、平成 27 年 3 月 27 日「学校教育法施行規則」の一部及び小・中学校学習指導要領の一部、特別支援学校小・中学部学習指導要領の一部を改正する告示が公示されました。どういふことかということ、道徳教育の改善・充実を図るため、道徳の時間を教育課程上、**特別の教科である道徳（道徳科）**として新たに位置づけるとともに、いじめの問題への対応や発達の段階をより一層踏まえた体系的なものとする観点からの内容の充実、問題解決的な学習を取り入れるなどの指導方法の工夫を図ることなどを示したものです。

特に、中央教育審議会の答申において、「特定の価値観を（教師が）押し付けたり、主体性をもたず、言われるままに行動するよう指導したりすることは、道徳教育が目指す方向の対極にあるものと言わなければならない」、「多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて、誠実にそれらの価値に向き合い、道徳としての問題を考え続ける姿勢こそ道徳教育で養うべき基本的資質である」ということを踏まえ、**「考える道徳」「議論する道徳」**へと質的転換を図るものとしています。

この文部科学省の通知文は、学生教職支援センターにも掲示しておきますので、採用試験を受ける人は必ず目を通しておくようにしてください。

(2) 教科書検定「尖閣・竹島問題」について

（宮崎日日新聞より抜粋）「文部科学省は 4 月 6 日、来春から使用する中学校教科書の検定結果を公表した。領土の教育を強化させた学習指導要領解説書に沿い、領土記述はほぼ倍増。社会科の全教科書に竹島と尖閣諸島が登場し、多くが『固有の領土』と書いた。」

今春から、既に小学校で使われている社会科教科書もすべて竹島と尖閣諸島が記述されている。この件に関する新聞記事も 4 月から学生教職支援センターに掲示してありますから、関連する学習指導要領解説書や「教科書検定」も含め、この記事などに目を通し自分で作問するなどして対策を考えましょう。

(3) 小中一貫校「義務教育学校」について

小学校と中学校の 9 年間の義務教育を一貫して行う小中一貫校を制度化する改正学校教育法が、6 月 17 日に参議院本会議で成立しました。小・中学校と同じように、学校教育法第 1 条で「学校」の中に位置づけられました。名称は**「義務教育学校」**とすることになりました。施行は 2016 年 4 月からです。

また、新聞記事によると、文部科学省は中学校の教員が小学校でも学級担任になれるよう、教員免許制度の本格的に見直しに入ったということです。文部科学省は、中学校教員を小学校の学級担任にすることで連携が進み、同時にいじめや不登校が増える**「中一ギャップ」**の緩和も期待できると記事は伝えています。

新聞記事の中には、採用試験や面接試験等のキーワードがいくつも出てきました。しっかり目を通しておきましょう。

(4) 選挙権年齢を「18歳以上」に引き下げる改正公職選挙法成立

6月17日の参議院本会議で、選挙権年齢を「18歳以上」に引き下げる改正公職選挙法が成立しました。1945年に「25歳以上」から「20歳以上」に引き下げて依頼70年ぶりの改革となるそうです。政府は、高校生向けに選挙の意義などを解説した副教材を作成し、模擬投票も各地で実施するとしています。また、特定政党への支持の強要にならないよう、教育の中立性確保策も検討するということです。若い世代の投票率低下が顕著になっている現状をどう改善していけばよいか、高校教師を目指す人は特に自分の考えを持って試験に臨む必要があります。

◇ 教育実習で感動の体験

国際教養学部の教職課程を受講している4年生の教育実習が終わりました。5月から6月の間に行われた3週間の教育実習を振り返り、その感想を書いてもらいました。どの学生の感想にも今まで経験したことのない感動や教職の厳しさなどへの思いが綴られていました。今回から、連載で実習の感想を紹介します。まず、星倉まどかさんの感想です。

教育実習の最終日、最後の授業を終えて、「ありがとうございました」と一礼をしたと同時に、大粒の涙がこぼれた。それは、人生で初めて「先生」と呼ばれた3週間が終わった瞬間だった。達成感や寂しさ、そしてたくさんの悔しさが入り混じった涙だった。

本当に濃密な3週間だった。毎日、失敗や新しい発見、そして、後悔の連続だった。自分が理解していることと、それを他人に教えるということは似ているようで全く異なるのだと痛感した。しかし、試行錯誤の末に、生徒の笑顔や楽しそうに授業に取り組む姿を見ることができたとき、私は、初めて指導者（実習生ではあるが）としての自覚を持てたような気がする。きつくて大変な仕事の先に、何にも代えがたい喜びがあることを、私はこの3週間で知ることができた。

私はこの先、この実習で出会った生徒一人一人を、決して忘れることはないだろう。こんなに素晴らしい経験ができて心から幸せに思う。

◇ 教員採用選考試験に向けたワークショップについて

平成28年度教員採用選考試験一次試験の直前対策として、6月30日に国際教養学部の4年生の教職課程受講者7名を対象に、特に宮崎県の教職教養及び専門科目を中心に学生教職支援センター主催ワークショップを行いました。午前中は模擬試験を行い、午後は午前中の試験の解説、そして今後の対策等について大竹正純先生から丁寧な指導がありました。

宮崎県の一次試験は、7月18日（土）・19日（日）に行われます。今年度、本県の高等学校教員に採用された坂本枝律奈さんからの具体的な直前対策アドバイス（1ページ）も大いに参考にして、強い気持ちで目標達成を成し遂げてください。